

第2回草津市総合計画審議会 会議録

■日時：

令和元年8月21日（水）14時00分～16時00分

■場所：

草津市役所 2階特大会議室

■出席委員：

赤星委員、安里委員、井上委員、上野委員、角谷委員、北村委員、喜田委員、木村委員、肥塚委員、小寺委員、田中委員、塚口委員、土山委員、中嶋委員、三浦委員、南(英三)委員、宮城委員、宮下委員、森田委員、森本委員、谷地田委員、山口委員

■欠席委員：

内田委員、宇野委員、清水委員、中村委員、南(弘蔵)委員、山下委員

■事務局：

総合政策部 岡野部長、金森副部長

企画調整課 松浦課長、小川課長補佐、村上副係長、力石主査、小林主任

■傍聴者：

1名

1. 開会

- 開会にあたって、岡野総合政策部長より挨拶

- 事務局

草津市総合計画審議会設置条例施行規則第5条第2項に基づき、委員の半数以上の出席という要件を満たしており審議会が成立していることを報告。

前回欠席の委員、委嘱替等があった委員を紹介。

2. 審議

(1) 第5次草津市総合計画の総括評価について

- 事務局

<資料1について説明>

- 委員

分野「商工観光」の基本方針「工業の振興」のベンチマークについて、目標値（創業・第二創業等の企業の立地件数：51件）に対して目標達成度（68.6%）が低い。まとまった工業用地の確保が難しい現状が市内にあるものの、職住近接の環境づくりにより、子育てにも良い影響があると考えられるため、県との連携も含めて政策を検討いただきたい。

●事務局

市内に工業用地を誘致するだけのまとまった土地がないことは委員御指摘のとおりであり、総括評価の中でも商工観光の分野において課題としております。第6次総合計画ではこれらのことを踏まえ、検討を進めてまいります。

●委員

分野「人権」の基本方針「人権の尊重」のベンチマークについて、達成度が94.7%という評価になっているが、人権学習について自分の子供に質問したところ、人権教育はしっかりしているが、草津市の状況についてはほとんど知らないという答えだった。草津市民であることに誇りや愛着を持っているという指標の数字の低さとリンクしているように感じた。このことについて、今後、なにか対策はされるのか。

●事務局

子どもたちの人権教育については、学校教育の中で実施しております。ただ、草津市に特化した教育を行えていないという実情も委員御指摘のとおりかと思われまます。御指摘の内容は担当部にも共有させていただきます。

●委員

分野「防犯・防災」の基本方針「災害に強いまちづくり」のベンチマークについて、達成度が92.7%になっているが、昨年9月に発生した台風20号により堤防の木が倒れた際の対応の遅さなどから、県と市で役割が分かれており、連携がとれていないように思える。今後どのようにしていかれるのかお聞きしたい。

●事務局

市と県の連携は必要なことと考えており、御指摘の内容は担当課にも共有してまいります。

●委員

2ページのグラフは10年近くの経年変化が分かって非常に良いが、11ページ目以降の各分野では4年ずつで指標が変わっており、経年変化が分からない。長期で同じ指標を取ることが非常に大事なことと考える。

●事務局

委員御指摘の通りでございます。第6次総合計画の指標設定につきましては、できるだけ施策に直結した指標設定を検討したいと考えております。

●委員

分野「行財政マネジメント」の基本方針「健全な市政運営」のベンチマークとしている将来負担比率について、具体的な実績値があればいただきたい。また、行財政の健全化を図る指標として将来負担比率だけではなく、財政の硬直性を表している経常収支比率や起債の動向、財政推計などがある方が良いのではないかと。

●会長

データブック 2019 の 18 ページ以降で財政に関する指標を掲載しておりますので御参照ください。

●委員

2 ページのグラフ「総合的に住みやすいまちである」の評価について、お住まいになっている年月の違い、性別や年代などクロス集計を行い分析したほうが、第6次総合計画に生かせるのではないかと。事務局では男女別でも世代別でも、回答の傾向に大きな差がないことを把握されているとのことであったが、多くの方に同様の傾向が出ているということは重要なデータであり、特徴的なものは資料として示してはどうか。

●事務局

検討させていただきます。

●委員

総括評価シート（分野別）の分野「男女共同参画」について、第3期基本計画策定時の現況として「固定的な性別役割分担意識が依然として解消されず男女の不平等感が暮らしの様々な場面で残っています」とあるが、これはどのようなデータをもとに評価をしたのか。また、「性別にかかわらず個性と能力が十分に発揮されるよう男女共同参画の社会づくりをさらに進めていく必要があります」とあるが、行政側が評価しているのは、自治体やまちづくり協議会の女性委員の数ではないか。これ以外にも市民活動等が行われているが、評価指標には載っていないため、第6次総合計画に関してはこのようなところも評価の対象としていただきたい。

●事務局

どのようなデータをもとに評価をしたかについては、担当課に確認をさせていただき、後日回答させていただきます。委員の御指摘を担当課にも共有させていただき、第6次総合計画では指標の設定について、慎重に考えてまいります。

●委員

2 ページの折れ線グラフについて、「住みやすいまち」、「住み続けたいまち」は、まちづくりに最も基本的なところになるかと思うが、全体的に増加傾向とは言え、この平成 28 年の部分だけ少し低い数値になっているのはなぜか。

●事務局

平成 28 年下がった理由については詳細な分析を行っていないため、後日回答させていただきます。

●委員

総括評価シート（分野別）の分野「子ども・子育て」について、第3期計画策定時の課題として「待機児童の解消が喫緊の課題であり、連携強化や就学前教育・保育の質の向上を進める必要があります」とあるが、平成29年は2人、以降0人となっており、上記のように評価した理由はなにか。

●事務局

計画策定時の平成26年度には、待機児童数は91人であったことを踏まえて、課題としておりました。また、現在は毎年4月1日時点で他の保育所に空きがあり、そちらを選んでもいただければ保育所に入れたという方に関しては、国の基準に則り待機児童にカウントしておりません。しかし、年度当初の待機児童に限らず、あらゆる場面において待機児童を解消していく必要があると考えています。

●委員

農業は現在、農地の減少や農業従事者の高齢化など大変先行きが厳しい状況にある。そのような中、分野「農業」のベンチマークは地元農産物を購入するよう心がけている市民の割合で、消費者から視点しかない。生産者からの視点も入れていただきたい。

●委員

環境、社会、雇用が安定し、バランスよく機能してこそ活気のある草津市がある。働きやすさという視点では指標が何かあるのか。

●事務局

指標の1つといたしまして、働きやすい労働環境であると感じる市民の割合という指標がございます。自分の生活圏の中に働く場というものがあるというのは大変重要なことだと思っております。また、そういった視点は、まち・ひと・しごと総合戦略にも含まれており、併せて検討してまいります。

(2) 第6次草津市総合計画 基本構想前段部分（案）について

●事務局

<資料2～参考資料2について説明>

●委員

「草津市の特性」の中の「多彩な魅力を感じられるまち」について、駅周辺のことばかり記載されており、これ以外の内容も書けないか。

●事務局

駅周辺の市街地整備を中心に草津市が発展してきたという経緯があり、このような記載をしておりますが、記載については再度検討いたします。

●委員

第5次の基本構想では「地域の特性」の中に「美しく、変化に富む自然」などの表題があったが、今回それがなくなり少し柔らかみが欠けたという印象を受ける。

●委員

総合計画と財政との関係について、基本的な考え方を教えていただきたい。

●事務局

総合計画を策定する根拠法令となる草津市自治体基本条例の中では、「基本計画は、財政推計を踏まえ、事業によって構成される施策の体系をもつものとする」と規定されており、財政部局で作成した見通しを踏まえて基本計画を策定することとなります。

●委員

様々な事業を実行するにあたり、借金をしてでもやるのか、実行するために市税、市債を増やしてでもやるのかなど、この審議会でも財政見通しも含めて議論する必要はないのか。

●事務局

財政部局が作成する財政規律ガイドラインの中で、総合計画の期間中の市の財政見通しについて、お示しする予定となっております。また、総合計画と予算は連動を図りながら、PDCAを回して進捗管理をしております。

●委員

個別の各計画の中でも予算の見直しを毎年やっていくという事か。

●事務局

その通りです。

●委員

読みやすくするために、例えば「地域の特性」や「多彩な魅力を感じられるまち」の中に市民のインタビュー、草津川跡地公園 de 愛ひろばで撮影した写真やコメントなど、市民の声という章を設けたらどうか。

●会長

読みやすくするための工夫は必要かと思いますが、基本構想の前段で、御意見の内容を入れるというのは総合計画には馴染まないかと思います。

●委員

参考資料として示されている各意識調査の結果について、高校生アンケート調査の結果の特徴として、すべての人にやさしいまちというのが上位になっている。これを念頭に置き、第6次総合計画ではそういった視点を取り入れていただきたい。

●事務局

今回の各調査等の結果を参考にしながら、今後、将来ビジョンなどを検討いたします。

●委員

一人当たりどれだけ市の予算を使っているかなど、そういう記載があるとわかりやすい。

●事務局

一人当たりで見た場合に、どれくらい予算が使われているかの視点は大事だと思われま
す。現在、広報くさつでデータをお示ししております。

●委員

「草津市の特性」にハード的なことが多く書かれているが、ソフト的な部分が書かれて
いない。例えば、市民がどんな分野でどういう活動をされているのかなどの視点も盛り込
んでいただきたい。

●委員

「草津市の特性」の中の「市民意識調査」を見ると、草津市の魅力の多くを利便性が占
めているようである。それに特化して総合計画を策定するつもりなのか。人の生活や暮ら
しぶりが見える指標を設定するなどの視点も必要ではないか。

●事務局

草津市はしばらく人口増が続きますが、いずれ人口減少局面が訪れます。また、コミュ
ニティの希薄化も問題視されており、人と人のつながりがこれから重要になると考えて
います。愛着やアイデンティティといったものを醸成していけるような視点も次期総合計
画では、検討する必要があると考えております。

●委員

草津市を愛着が沸く都市にする必要があると思うが、具体的にどのように進めていく
のか。自身の住む都市の歴史や成り立ちなど、例えば草津宿本陣のことや「急がば回れ」
の語源が草津市にあることを知らずには愛着は沸かないだろうと思われる。

●事務局

基本構想を策定するにあたって、まずは本市の人口が増加していることや地域ごとの人
口構成の差など、課題を共通認識とした上で、議論していく必要があると考えており、記
載方法について検討してまいります。

3. 閉会

●事務局

第3回、第4回の審議会については、日程調整後御連絡させていただく。

●閉会にあたって、金森総合政策副部長より挨拶